



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

スマホやゲーム依存から来る“生活リズムの乱れ”に警鐘！

～子どもを否定してはいけない社会の風潮も「尊重」と「甘やかし」は違う～

脳科学に基づいた独自のメソッドで不登校支援サポート事業を行っている株式会社スダチを創業した小川涼太郎氏のインタビュー記事の一部を紹介します。

一文部科学省の発表によると、2022年の小中学校における不登校児童生徒数は前年比22.1%増の29万9048人で、9年連続増加の一途を辿っています。不登校が年々増えている要因は何だと考えられますか？

一番の要因はデジタル機器の普及だと思います。スマホなどのデジタル機器は脳内に快楽物質であるドーパミンを放出させるため、依存症に陥りやすい特性があります。麻薬依存と同じ状況が脳内に起こるので、学校に行こうと思えなくなってしまうのです。実際、不登校で相談に来られる親御さんのほとんどは、お子さんのデジタル機器との付き合い方に悩んでおられます。男の子はゲームが多く、女の子はYouTubeなど動画系に依存する傾向が強い印象です。

一メディアで取り上げられるのは、いじめられて不登校になるパターンが多いように思いますが、実際はデジタル機器の依存？

皆さん驚かれる方が多いのですが、いじめが原因での不登校は全体の1%にも満たないのが現状です。・・・(中略)・・・より深刻で根本的な原因は、スマホやゲーム依存から来る“生活リズムの乱れ”です。



一学校への行き渋りが起きたとき、まず、親としてはどのような対応をとるべきなのでしょう。

今、“多様性”という言葉が世界的なキーワードとなり、子どもを否定してはいけないという風潮があります。多くの不登校ケア専門家が「まずは見守りましょう、寄り添いましょう」とアドバイスする。もちろんそれは重要な考え方で、子どもの話を聞くことは大切です。しかし、「学校に行かないで1日中ゲームをしたい」ということも聞くべきなのか。“尊重”と“甘やかし”は違います。ダメなことはダメと言う、いわゆる躰を行うことは子育ての大変重要な要素です。子どもの好き放題を許していると、子どもは親に対して尊敬の感情を抱かなくなります。親を尊敬できなければ、子どもは「親の言うことを聞く必要はない」と判断する。正しい親子関係を築くことが難しくなっていると相談を受けることが増えているのも現代の特徴かもしれません。

・・・(中略)・・・

一最近では「学校なんて行かなくていい」という意見も取り沙汰されます。不登校問題に取り組まれ、実績を残されている中、今後、社会にどのような変化を望まれますか？

最終的には子どもたちは社会に出なければなりません。社会に出れば、競争が始まり、そこでは自由に好きなことだけやっていたら評価されないし、理不尽もたくさんあるのが現実です。それらを見無視して、「好きなことだけやればいい」「自由にやればいい」という今の社会の雰囲気、教育現場の状態には大きな違和感を抱いています。親や教育者の役割は、子どもたちを自立させて社会に送り出すことです。そのためには厳しいこともある程度言わなければいけないし、できないことをできるようになるためには苦しい時期もあるということをしつかり教え、そこに向けて努力する必要も教えなければなりません。“見守り”や“寄り添い”が行き過ぎた結果、今の世の中は子どもにとってむしろ残酷な事態になっているのではないかと。その風潮が変わり、未来を担っていく宝である子どもたちを育てるために、本当の意味で子どもたちがこの先人生を幸せに生きていくために必要な力を養う観点を持つ人が一人でも増えていけばいいなと思います。

このインタビュー記事は、昨年度11月24日(金)No74で紹介したイチロー選手のインタビュー記事と相通じるものがあります。学校HPに掲載していますので、合わせてお読みください。